

日本をキリストへ 協力

3

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル日本福音クルセード気付
TEL 03-295-4414



伝道は楽しい

会長 本田弘慈

今回、伝道団体がひとつとなって交わり、フェスティバルが開催されましたことを、本当にうれしく思います。神さまの大きな恵み、ご摂理、背後にある伝道団体のご努力によるものと思います。

「それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。』」

(マルコ十六15、16)

伝道は楽しいと思います。なぜ楽しいのでしょうか。それは第一に、救われたよろこびを証しすることだからです。救われていなければ、天皇であろうと代議士であろうと伝道は出来ないのです。ただ救われた者だけが出来る特技なのです。

第二は、主のご命令に従うことだからです。伝道は主の至上命令です。この命令に従っているとき、

心の深くによるこびを感じるのです。私は牧師をしていたのですが、若い時からの召命は伝道者になることでした。神戸で牧会をし、百五十名ぐらいの会員をもつようになると、そこから離れて巡回伝道に立つことは容易なことではありませんでした。三十年前に神戸教会を辞して主の命令に従ってまいりました。本当に神さまはこの三十年間、驚ろくような祝福をもって導いてくださいました。従うことはいけにえにまざると主は言われました。

第三は、伝道は最高の愛の表現です。主の救いを人々に伝えることほど、愛の行為は他にないと思います。そのことを思うと、伝道は実に楽しいものです。第四は、主のおいでが近い時に、伝道することは辛いことです。牧師は信徒が成長していかれるのを見るとき、牧会者としてのよろこびをお感じになると思います。巡回伝道者にはそのよろこびはありません。伝道者のよろこびは、メッセージのあと、涙をもって前に出て来る人々の姿を見るときです。

いろいろなちがった分野で伝道している伝道団体がこうして一カ所に集まり、フェスティバルを開催することが出来たことは、画期的なことと思うのです。フェスティバルを通して相互の交わりをもち、理解が深められ、さらに全世界に対するビジョンをもつことが大切です。

主の目前に立つ日に、「あなたは忠実な僕だった」と言われるこのことを聞くことが出来れば、満足だと思えます。

このフェスティバルの機会に伝道団体のお互は、献身をあらたにし、伝道に前進していくものでありたいと思えます。



伝道団体フェスティバル

1986年6月12日～15日 OSCC



フェスティバルの開会は、前夜祭での小林靖宏氏の幻想的なアコーディオン演奏によって始まりました。目をつむって演奏を聞いていると、大草原にも、伝統あるカテドラルにも連れて行ってもらえました。

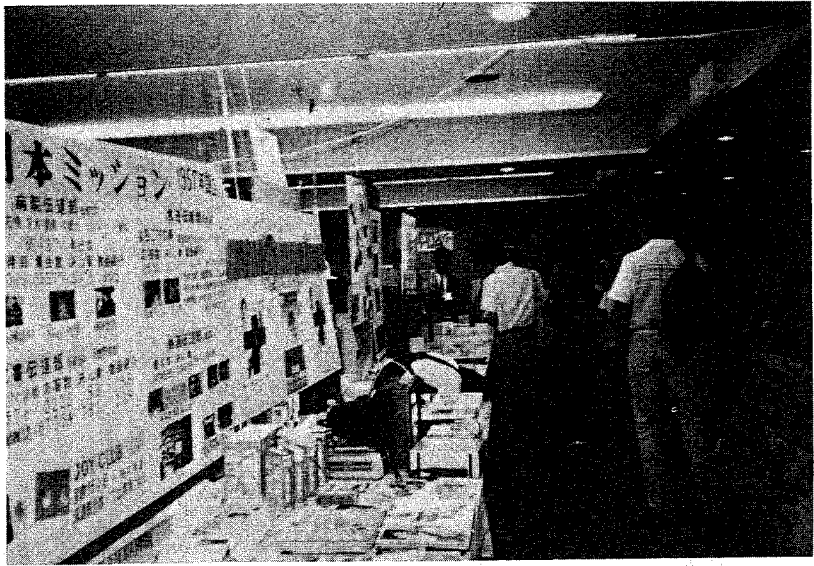
前夜祭での本田師のメッセージは一頁に載せました。

前夜祭はテープ・カットで閉じられました。が、実はこれがフェスティバルの実際的開幕でした。会衆はドットと展示会場へと流れこんでいきました。



各団体は趣好をこらして展示をし、その働きを紹介しました。各団体が配布するチラシを受け取るだけで、伝道団体の情報をしっかりと得ることが出来たでしょう。

延来客数は三千二百人。多くの人々が展示を見、伝道団体の働きを理解してくださいました。「こんなにたくさん伝道団体があるとは知りませんでした。それに、いろいろな分野の働きがあるのですね」と感想を述べていました。



人気のスナックコーナー
展示をグルッとまわって疲れた人々がひと
休みして、特別サービスのスナックにホッと
ひと息。歓談の時も楽しそう。
託児室があればよかったのにはお母さん
たちからの声。



新加盟団体紹介

- ホザナ・ミュージックハ視聴覚▽織田恭博
359 所沢市緑町四一九一四
- 0429-22-6220
- ステイブ・フォックス・ミニストリーハ伝道▽三上友通
170 東京都豊島区駒込三一五一二〇
- 03-940-3976
- 小さいのちを守る会ハ社会福祉▽三森春男
101 東京都千代田区神田駿河台二一〇 OSC内
- 03-233-0704
- ジミー・スワガート伝道団ハ伝道▽吉山 宏
170 東京都豊島区駒込三一五一二〇
- 03-940-6691
- クリスチャン・コワイヤハ視聴覚▽和田健治
176 東京都練馬区桜台五一三七二〇
- 03-993-3311

箱根 一泊研修会

一九八六年十一月二十日〜二十一日 箱根の小涌園にて
 昨年同様、一泊研修会を行ないます。
 ▼フェスティバルの反省評価
 ▼八七年度の統一テーマ「青少年」について
 加盟全団体からの参加を期待しています。創意工夫を
 こらし、みんなで取り組める具体的なプログラムや目
 標を定めることができればと願っています。全日本に
 インパクトを与えていきたいものです。

●本田弘慈会長巡回伝道三十年●

今年で三十年を迎える本田師は、去る七月一日、東京においては椿山荘にて開かれた感謝会で多くの方々から祝われました。約六百人が参列し、長年にわたる先生のお働きに感謝し、また、先生を通して多くの人々が救われ、偉大なみ業がなされていったことを覚えて、聖名を崇めました。

祝辞を述べられた方のうち、救世軍の朝野洋氏は、本田先生を通して救われ、今は救世軍の士官になっておられる方を伴って講壇に立たれ、大きな拍手をあげました。

青年時代から現在までをスライドでふりかえり、本田先生の歩まれた足跡に思いをはせました。また、胡美芳さんの賛美が色を添えました。

最後に本田先生が立ち、これからの日本と世界に向けての伝道の急務なることを力強く訴え、感謝会が閉じられました。

今年は記念の年ということで、関西でも感謝会がもたれ、それに加えて、各地で記念クルセードが開かれます。そのしめくりが、再び東京に戻られて十月十九日 日比谷公会堂で開催されることになっています。

●日・韓・米・中教会指導者研修会●

東京・池袋のメトロポリタン・ホテルで、日韓米中より約四百人が参加して研修会が、去る六月十七日〜十九日開催されました。本田先生が日本代表になられ、伝団協に属する方々が主催のキャンパス・クルセードを応援して研修会を盛り上げました。

- 発行日 一九八六年七月二十日
- 発行者 本田弘慈 ●編集者 姫井雅夫